

## 教育プログラムの概要及び採択理由

機 関 名	茨城大学	申請分野(系)	人社系
教育プログラムの名称	地域教育資源開発による高度教育専門職養成		
主たる研究科・専攻名	教育学研究科		
(他の大学と共同申請する場合の大学名、研究科専攻名)			
取 組 実 施 担 当 者	(代表者) 橋浦 洋志		

### 【教育プログラムの概要】

#### I. 教育系大学院の課題と「本教育プログラム」の目的

「本教育プログラム」は中教審の「新時代の大学院教育の展開に向けて」と「今後の教員養成・免許制度のあり方について」を踏まえた「**教育系大学院教育改革プログラム**」であり、**教職大学院の内容を既存の大学院で実現する新規性あるプログラム**である。茨城県は日本有数の農業・畜産県であるとともに臨海工業地帯を抱え、首都圏近郊都市という性格も備えている。この活発な運動体を「教育資源」としてとらえて「本教育プログラム」は展開される。「**本教育プログラム**」の目的は二つある。①大学院生が県外との関係も視野に入れながら、茨城県の主要な「**地域産業**」等を調査し、**生産から消費までの全工程を「地域教育資源」として発掘・加工し、教材化・授業化することで「授業展開力の高次化」を達成**すること。この過程で、**課題解決力と企画交渉力・プレゼンテーション力**等を徹底して鍛錬する。②地域資源の豊かさを未来の子どもたちに伝え継承していくために、①で培った力量を**21世紀の「持続可能な（サステイナブル）社会」における教育的課題**のもとに展開し、「**グローバルな課題**」に取り組む「**教育的力量**」を修得させること。「本教育プログラム」は地域資源を多様な教育資源としてとらえ、リアルな人間の営みを教育的観点から価値付け、かつ地域の豊かさを**持続・継承するための教育的手立てを探求**するものである。

#### II. 本プログラムの特徴と内容

**第1の特徴**：「本教育プログラム」では、①「**新設必修科目**」として「**地域教育資源フィールドスタディ**」（2単位）を設定し、②現行の「**学校教育総合研究**」を「**授業展開ケーススタディ**」（2単位）、「**学校教育基礎論**」を「**教科コラボレート授業**」（2単位）として改変充実させる。院生による「**自主プロジェクト**」として、①「**教育資源開発自主プロジェクト**」、②「**教科コラボレート授業自主プロジェクト**」、③「**サステイナビリティ教育自主プロジェクト**」を立ち上げる。新設必修科目において、院生は県内外の「**地域産業各界**」等と連携して「**地域産業を中心とした地域資源**」の各種「**フィールドワーク**」を行う。それを「**教育資源**」として発掘・加工し、専門教科別に**教材化**する。この教材を用いて「**授業展開ケーススタディ**」を附属学校等で「**実践・分析・評価**」する。次に、院生は「**同一の課題**」について、各教科の特性を生かしたアプローチを試み、各教科を重ね合わせた「**教科コラボレート授業**」を行う。このことによって、**全教科的視野と教科専門の相互関連性**のなかで**教科の特質を認識しながら、厚みのある教科理解と教科指導力を修得**させる。授業外活動としての「**自主プロジェクト**」においては、**学習活動を自主的に展開し、正規授業内容の確かな定着を図るとともに、「地域教育資源フェスティバル」を開催し、成果を地域に還元**する。「**PDCA**」の「**評価改善カンファレンス**」で「**点検評価**」し、「**教科横断的な新しい授業展開力とプレゼンテーション力**」の**高度化**を図る。

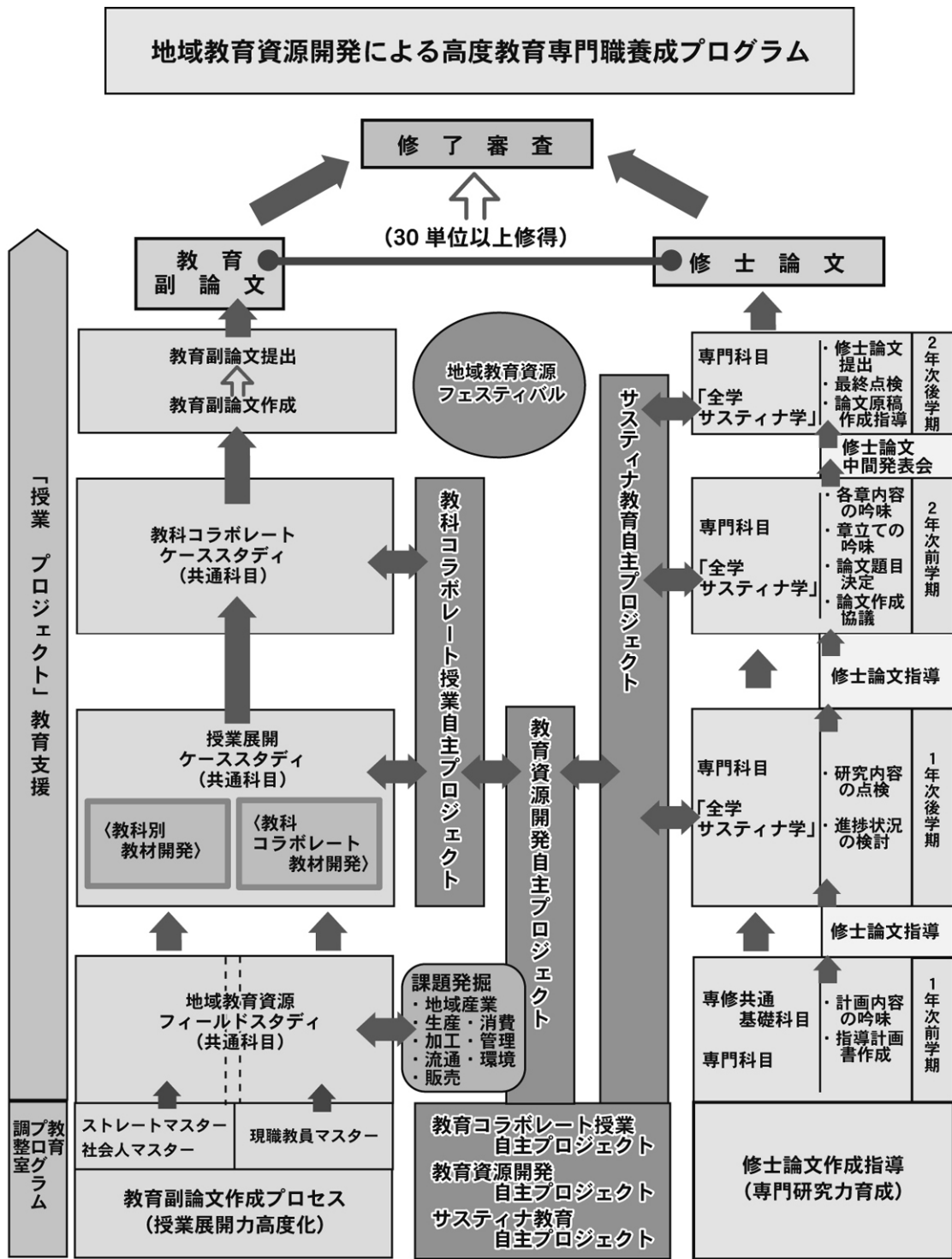
**第2の特徴**：「本教育プログラム」は、茨城大学の全学的取り組みである「**サステイナビリティ学全学プログラム**」を本教育課程に積極的に取り込み、**未来社会に生きる子どもたちに対する教育的責務**として、「**持続可能な（サステイナブル）社会**」への**視野**をもった「**高度教育プロフェッショナル**」の育成を行う。

**第3の特徴**：上記の「本教育プログラム」の取り組みにおいて、院生は**専門研究を深化**させ「**修士学位論文**」を作成するとともに、「**自主プロジェクト**」活動による**成果を取り込みながら「修士学位論文」の「教育副論文」をまとめ上げる**ことで、**教科専門における「理論的探求」と「授業展開力」の連結**という課題に取り組む。

#### III. 「本教育プログラム」の全体的な実施体制

研究科長・取り組み責任者・大学院専門委員会による「**教育プログラム調整室**」を創設する。教員と院生による「**情報発信プラットフォーム**」を設置し、**成果を広く提供する**。

履修プロセスの概念図 (履修指導及び研究指導のプロセスについて全体像と特徴がわかるように図示してください。)



\* 「全学サステイナ学」とは、茨城大学全学横断大学院プログラム「サステイナビリティ学」である。「教育学研究科」では1年次後期から参加可能なカリキュラムを構成している。「サステイナ教育プロジェクト」は「サステイナビリティ教育プロジェクト」のことである。

<採択理由>

大学院教育の実質化の面では、「教育関係職業人としての見識と専門的技能を身につけさせ、社会の発展に寄与できる人材並びに高度な研究を展開できる人材」の養成という目的を掲げ、「専門研究と教育・授業展開力」の連結を目的とした体系的な教育課程が編成され、教員組織、ファカルティ・ディベロップメントの実施体制及び情報提供体制が充実している点は評価できる。

教育プログラムについては、地域の生産から消費までの工程を教材化・授業化することで「授業展開力の高次化」の達成とグローバルな課題に取り組む教育的力量の習得を目指して「地域教育資源フィールドスタディ」を新設し、現行授業の改変充実や大学院生の自主的な学習活動である「自主プロジェクト」の立ち上げを行い、大学院生に修士論文の他に「副論文（教育副論文）」作成を課すなど、「専門研究力」を学校教育現場での「授業展開力」に結び付ける効果が期待される取組が計画されている。また、本教育プログラムの大学全体の中での位置付けも明確で、教育学研究科を挙げて取り組む計画となっており、地域資源の活用という全学的な方針の下での堅実な実施が期待される。